

2025（令和7年）年度ペットフード産業実態調査の結果について

一般社団法人 ペットフード協会

ペットフードメーカーなど、100社（正会員52社、賛助会員48社、2026年9月1日現在）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：児玉博充】は、2025（令和7）年度（令和7年4月1日～令和8年3月31日）ペットフード産業実態調査を行い、その結果が以下の通りまとめられました。詳細に関しては別紙資料をご参照願います。

調査の結果、ペットフード産業の出荷総額は 462,043 百万円で、対前年度比は100.6%と、10年連続での増加となりましたが、成長率が大きく鈍化しました。出荷量は、566,621 トンで、対前年度比 99.8 %と4年連続で 減少しました。これまで会員各社は 出荷量の減少を高付加価値商品の伸長等による単価上昇が補い、市場の金額成長を支えてきましたが、今年度はトン当たりの出荷金額の上昇率も鈍化し、出荷総額の成長率は100.6%にとどまりました。市場を取り巻く環境に変化がみられる結果となっています。

主要点は以下の通りです。

1. 出荷金額：用途別

犬用の出荷額は対前年度比 100.2%とほぼ昨年と同じであり、猫用の出荷額は対前年度比 101.0%と僅かに増加しました。

犬・猫用を除く、その他のペット用 出荷額は、対前年度比 98.1%と減少しました。

2. 出荷金額：製品タイプ別

犬用は全体の 54%を占めるドライタイプの出荷額は対前年度比 99.5%と減少しました。

全体の 15%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比 102.0%と増加しました。

猫用は全体の 46%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比 99.8%と減少しました。

全体の 47%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比 102.2%と増加しました。

3. 出荷数量：国内生産品と輸入品別

国内生産品の出荷量は対前年度比 102.2%と増加しました。輸入品の出荷量は対前年度比 96.7%と減少しました。

4. 出荷数量：用途別

犬用の出荷量は対前年度比 99.7%と 10年連続 減少し続けている。猫用の出荷量は昨年に続き 100.2%とほぼ 横這いでした。

犬・猫用を除く、その他のペット用の出荷量は対前年度比 95.5%と減少した。

5. 出荷数量：製品タイプ別

犬用は全体の 64%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 97.6%と昨年に続き減少しました。全体の 13%を占めるウェットタイプの出荷量は対前年度比 104.5%と増加しました。

猫用は全体の 63%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 101.7%と増加しました。全体の 34%を占めるウェットタイプの出荷量は対前年度比 97.4%と減少しました。

6. 出荷数量：国内生産品 用途別

国内生産犬用の出荷量は対前年度比 100.2%と ほぼ昨年と同様でした。

国内生産猫用の出荷量は対前年度比 104.2%と増加しました。

国内生産のペットフード合計は対前年度比 102.2%と増加しました。

7. 出荷数量：輸入品

輸入品犬用の出荷量は対前年度比 99.2%と昨年に続き減少、輸入品猫用の出荷量も対前年度比 94.7%と減少しました。

輸入品のペットフード合計は対前年度比 96.7%と 減少しました。

8. 国別輸入数量

国別輸入量での最大の輸入国はタイ、アメリカ、韓国の順で、オーストラリアからの輸入量は前年度と比較して減少したため、順位が下がりました。

輸入国増減率では、タイ、中国、イタリア、ドイツ、ニュージーランド、インドネシアの輸入量が増加しました。

一方、アメリカ、韓国、フランス、オーストラリア、オランダ、チェコ、オーストリア、カナダ、台湾の輸入量は減少しました。

以上